

半世紀にわたり高座に上がり続けるアマチュア落語家がいる。山梨落語研究会代表の紫紺亭圓夢さん（本名橋本修さん）（68）、甲府市。高校時代に落語を始め、会社勤めをしながら各地で寄席を開催。退職後はさらに頻度を増やし、人々を笑わせている。「いつときでも嫌なことを忘れて笑える時間を提供できるのがうれしい」とし、落語人生50年を振り返り「幸せだねえ」と破顔一笑。21日には甲府市内で記念の寄席を開く。

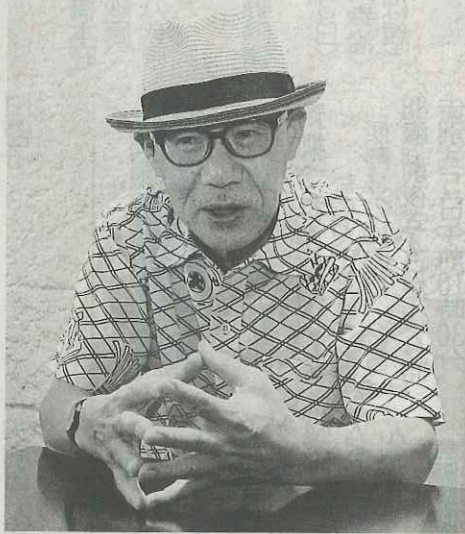
「昔からひょうきんで、机の上に乗っては落語のまね事をしていたそりです」。落語好きの父を持ち、小学生の頃から新宿末広亭に親子で足を運んでいた圓夢さん。高校3年生で落語研究会の発足メンバーとなり、初めて人前で本格的に落語を披露した。

明治大に進学後、同大落語研究会に入部。「部屋には行くけ

アマ落語家50年

「幸せだねえ」

紫紺亭圓夢さん(甲府)21日記念寄席



ど、教室は行かなかつたもんね」。どっぷり落語漬けの学生生活を送った。卒業後は山梨に戻り、会社員として働きながら落語を続けた。2008年に高校や大学の落研出身者を集め、山梨落語研究会を結成。翌年9月に旗揚げ公演を行って以降、甲府市総合市民会館や県立図書館、文学館での寄席を軸に活動してきた。

高座では軽妙な語り口で聴衆を引き込む圓夢さん。「落語があったからの50年。落語のおかげで、さまざまな素晴らしい人たちと出会うことができた。何より喜んでくれる人がいると、頑張っちゃおうって思うよね」と笑う。

長男も万年堂あにきの高座名でアマチュア落語家として活躍する。「いずれは息子と孫と、親子三代で高座に上がれたらいいですよね」

「落語のように、自分も楽しく、周りも楽しい趣味ってなかなかない。こんなぜいたくない」と語る紫紺亭圓夢さん
—甲府市内

圓夢さんの落語人生50年と研究会旗揚げ10周年を記念した「会館寄席」は21日午後2時から、市総合市民会館で開く。圓夢さんの落語のほか、大喜利や大衆音楽もある。入場料500円。会場では、圓夢さんの写真集も販売する。

問い合わせは同所、電話055(231)1951。

〈本田未来〉

かいじネットワーク